

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常にリビングに理念と基本ケア10カ条を貼りだしている。また、会議で再確認している。	「認知症の人が地域の中で普通に暮らせるように」との思いで事業所理念と基本ケア10カ条を決定しました。この理念が実践できているかどうかを定例の会議でテーマとして常にチェックしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて、作品展以外は不参加	利用者が地域の中で暮らし続けられるよう、事業所自体が、地域の一員としてお祭り等の行事に参加してきました。デイサービス部門と一緒にいる行事でも地域交流を行い、地域とのつきあいを深める努力をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やイベント時に意見交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での家族や地域の方々の意見を聞いて、今後のサービス向上へつなげている。家族の参加が難しい。	運営推進会議で利用者や地域の人たちに、サービスの実際、評価への取り組み状況等について報告をおこない、それらについて話し合いをして、得られた知見は支援に反映しています。現在、家族の参加が難しいという現実があります。	家族の参加が難しいという現実に対しては、文書やアンケート形式、会報などでの参加も参加の一形態ですので検討の余地があると思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の会議へ参加をしたり、運営推進会議にて報告やアドバイスをいただいている。	市町村との連携については、年間2～3回、市役所の会議への参加をしています。また、逆に運営推進会議に参加を求め、アドバイスを受けるなどの交流をして、協力関係を築くように心がけています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の方針を掲げ、千葉県身体拘束排除の研修に参加し、その後、内部研修にて報告し、介護職員全体への周知を行う。また、ケアに関して話し合いをし、拘束をしない方法を検討している。	身体拘束をしない方針を掲げ、千葉県の研修に参加し、その後、内部研修にて、介護職員全体への周知を行っています。例えばベッドでは、柵をしないため、ベッドを一番下まで低くし、床には布団を敷くなどの工夫をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で話し合う。利用者のボディチェックを入浴や、更衣時に行い虐待がないか注意する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方に関しては、制度の説明を行い、支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問については、適宜対応し、理解を得る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に利用者、家族の意見を反映するため、利用者からは、日々の生活の中での意見や要望を聞き、家族からは、面会時、会議参加時に意見を聞き、それらを反映させています。	入居中の夫の妻が、病院から当事業所に入居希望した例では、妻がCVポート造設されているため、当事業所では医療体制を整えて受け入れた例があります。このように普段から利用者の要望をくみ上げる努力をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜、意見や提案を聞き、必要に応じて反映している。また、代表者、管理者は意見等を言いやすいように常に気を付けている。	代表者、管理者は、職員が運営に関する意見や提案をしやすい、いつでも声をかけられる雰囲気作りを心掛けています。いい案であれば、採用し、実施できる方法を考え実施します。不可の場合は、理由を説明するように心がけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算を取れるよう、キャリアパス制度を構築し、条件の整備を行った。今後も働きやすい環境の整備に努めていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を利用し、ケアの質を向上させる事を行っている。内部研修は、基礎的な内容をピックアップして行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・市主催の会議、研修会、外部研修への参加を通して、同業者との交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人より、不安・要望等に傾け信頼関係づくりに努めている。意見の確認ができない方については、ご家族から話を聞き様子を見て判断している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居時の契約時に伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス事業者の情報提供し、選択していただいている。また、介護保険サービスの違いが分からない方が多いので、個々のサービスについて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にいるよと安心感を与えるような関係を築けるように努力している。何事も一緒に考え、支えあえる関係も構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に良いのではないかとこの事を日頃から感じ取り、ご家族への提案させていただき、一緒に考える事を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人の面会も多い。また、通所介護にて馴染みの関係がある人との交流を支援している。また、外出行事には、利用者様の馴染みの場所等を積極的に取り入れている。	家族だけでなく、友人との面談も多く取り入れるようにしています。また、通所介護で馴染みのある人とも交流出来るように支援しています。外出時には利用者の馴染みの場所を聞き出し、その場所を訪問できるよう工夫しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、相性が合わない関係の方についてはトラブルが起きないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、意見や提案を聞き、改善している。また、サービス終了後も、相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での気づきを大切に、本人の立場で考えられるように努めている。意思疎通が困難な方は、ご家族と話をしたり、本人の立場に立って検討している。	生活の中での気づきを大切にしています。声かけに右耳だと返答がないため、通院すると、難聴と分かった例がありました。また、夜間に逃げ出そうとするご利用者については、家族に相談し、以前の経験から来ていることが分かりました	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に、確認をする。また、日々の介護や会話の中で得たものをご家族にお話し、ご本人の生活へとフィードバックしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、見つけることもあるので、細かい情報も逃さないように努める。また、不快に感じることも見逃さないように努める。気づいた事は、記録に残し、共有する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での本人の気持ち、家族の要望を取り入れて作成している。課題を見つけた場合、関わる方々の意見を聞き、計画を見直している。	入居前から借りていた畑に行きたいとの要望を聞き、ケアプランに反映したり、日々の生活の中での本人の意向、家族の要望を取り入れて介護計画を作成しています。課題を見つけた場合、関係者の意見を聞き計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく個人記録に記載し、記録から気づきを発見し、新しい支援を展開している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生まれるニーズに対して、考え、色々検討、対策をして何が良いのかモニタリングし、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事、地域の観光名所等資源を活用し、豊かな生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を本人に選択していただき、事業所は、その医療機関と関係を築き、本人・家族が安心して医療を受けられるよう支援する。また、往診対応医療機関2か所連携を取っているため、	日頃の体調管理はバイタル測定と顔色、排尿、排便等の観察により把握しています。受診は基本的に家族の同行で内科2名、消化器科1名が受診しており投薬はヘルパー職員によるダブルチェックで実施しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と提携をしていて、月2回訪問。個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活や、本人の様子等情報を伝え、退院時には、医療機関からの情報を頂いたり、必要に応じてカンファレンスへの参加をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては、早い段階からご家族とお話しさせていただき、段階を追ってその都度お考えを確認させていただいている。ご家族の考えの変化にも対応している。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に利用者・家族に、重要事項説明をした上で、看取りに関する確認書に署名を受けています。状況の変化に応じて、家族の意思確認をしながら方針を共有しチームで支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎講習を受けている者もいるが、全員が実践力を身に付けていない。研修にて初期症状にてフィジカルアセスメントを行ったが、全員が理解し、判断できるまでになっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難に関しては、地域の協力体制を受けている。運営推進会議にて、当事者を避難場所として利用する事を確認しており、避難者がいることを地域の消防団へ知らせていただいております。救護等が来るようになってい	避難訓練は年2回、消防署の立ち合いで実施しています。避難訓練マニュアルも適宜更新(1月10日付)しています。実際の災害発生時には消防団による救護の対象場所になっていて、地域との協力体制を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等を通じて学び、対応できるよう心がけている。また、管理者等がその都度指導している。	安全優先のため、トイレのドアを半開きで介助していましたが、尊厳の改善事項として具体的に検討した結果、改善できるようになりました。また、おむつ交換時や入浴介助にタオル等を使用して羞恥心へ配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように働きかけている。自己決定が難しい方には、クローズドクエスチョンを用いて、なるべく自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の流れの中で、その人にあったペースを大切に支援している。居室で過ごす、リビングで過ごすのも自由になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装や、髪型など把握し、支援している。また、季節感のない方には、その季節に適した服装をアドバイスし、一緒に考えて変更する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は、コロナ禍にて、職員は別で食事をしているが、食事の説明等して楽しみながら食べるようにしている。イベントや歳時にはいつもと違うメニューを用意し、楽しんでもらう。	献立には希望を取り入れ、より食事を楽しみながら食べられるよう工夫しています。利用者は食後、職員と一緒に下膳やテーブルを拭くなど片付けに、役割を担っています。年2回の外出では、食事もできるような行程にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取時間には、飲んでいただき水分確保に努めている。また、運動や外出時等、体を動かした後も、摂取するように努めている。また、体調不良時、栄養・水分の摂取ができるよう、形態等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアにて確認し、必要があれば訪問歯科を受診する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンによって声をかけるようにしている。声かけも利用者の方によって使い分けている。また、オムツ使用の方でも、可能であれば座っていただける時間を設けている。	排泄チェック表でパターンを把握しながら誘導し、おむつ使用している3名も、実際にトイレで排泄する時間を設けています。また便秘予防として食事内容だけでなく水分、運動を促す対策をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動レク、体操を取り入れたり、水分量を増やしたりして、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に曜日を決めていますが、本人の希望や、家族の外出により、変更もしている。	入浴は基本的に週2回、機能低下の利用者には機械浴を2名体制で介助しています。衣服を脱ぐことへの抵抗感や恐怖心を軽減するようタオルを使用し、また入浴を楽しむ工夫として会話したり、一緒に歌ったりする等の対応をしています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食ご、個々のペースで過ごしていただき、好きな時間に寝られるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を個々にファイルし、介護職が見られる状態にしている。担当者は、特にご本人の薬を理解し、変更があった場合は、本人の体調等の変化に気を付けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、嗜好品、楽しみ事を個々に対応している。ご家族に支援していただき、外出して気分転換していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて、近隣等の散歩は中止していた。個別対応し、庭へ出て日光浴や、年2回程度の遠出の機会を設け、利用者・家族から喜ばれている。	気温の温かい日に庭へ出て体を慣らし、散歩再開の準備をしています。玄関は入居直後は施錠し、個別の外出支援で対応していました。遠出は2時間以内の場所を選定し、外食先には駐車場の手配や食事形態の協力を依頼しています。	遠出などの企画実施を継続しつつ、希望に応じて、短時間でも日常的な外出が再開できることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方については、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、電話や手紙のやり取りは可能であり、支援している。また、携帯電話を持たれている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように飾りつけを行っている。無理強いせず、自由にさせていただいている。また、レクリエーションの際には、希望や参加の確認をおこなっている。	職員間で空間づくりの会議を行い、意見を出し合い検討しています。レクリエーションでは体操、ボール等を使用したり、月々の飾り付けを作成しています。また利用者それぞれの得意分野で、無理強いはせず、日常的に手伝いが出来るように支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置を工夫して、快適な居場所作りを支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物や、好みのものを持ち込んでいただけるよう、入居時にお話しをしている。	使い慣れた物や、好みのものを持ち込む場合、管理のできない利用者には、家族と話をし職員が預かり、使用時に、いつでも渡すようにしています。居室内で気持ちよく休み、眠れるように空調、換気、寝具を日に当てる支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室へ名札等目印を付け、居室へ戻れるよう支援している。危険な物については、管理し触られないよう工夫している。		